



小学校国語科
「書くこと」の授業づくりに生かせる

見取り方参考例集

➤ 指導事項を達成した児童の姿を
明確に想定できる

- 指導事項を意識した単元計画が立てられる
- 指導と評価の一体化が実現できる
- 評価のための客観的な見取りができる



目 次

見取り方参考例集

「見取り方参考例集」の活用場面と使い方	1
「見取り方参考例集」各項目の見方	7
1・2年生言語活動例ア	8
イ	9
ウ	10
3・4年生言語活動例ア	11
イ	12
ウ	13
5・6年生言語活動例ア	14
イ	15
ウ	16

資 料 単元計画・授業展開例

5年生 言語活動例ア	
単元名「読み手が納得する意見文を書こう」	17



「見取り方参考例集」の活用場面と使い方

1 単元計画を立てる場面での活用

各学年の言語活動例ごとに、指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の具体的な姿が示されています。「見取り方参考例集」を基にすることで、指導事項から外れることなく達成した児童の姿を明確に想定できます。指導事項を達成した児童の姿が明確になることで、その姿が見られるために行う学習活動を適切に設定できるようになります。また、単元計画を立てるときに必要な指導事項や学習過程などの情報が1ページに収められているので便利です。



指導事項から児童の姿をどのように想定すればいいのだろう…

見取り方参考例集

1・2年生 言語活動例ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動

単元名「まとまりにわけてお話を書こう」

指導事項イ	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
構成の検討	自分が伝えたい物語の内容になるように、出来事をカードや付箋に書いたものを「始め」「中」「終わり」の場面ごとに並び替えて物語の構成を考えている。

「見取り方参考例集」を参考に想定した「おおむね満足できる」状況の見取り方

・自分が伝えたい物語の内容になるように、出来事をカードに書いたものを「始め」「中」「終わり」の場面ごとに並び替えて物語の構成を考えている。

① 目標や評価規準を設定する際に指導事項を確認できます

② 言語活動に合わせた具体的な児童の姿が示されています

③ ②を基にすることで、児童の実態や単元の内容に合わせた想定がしやすくなります



具体的な姿が示されているから想定しやすい！

使い方は3ページへ 

2 授業を行う場面での活用

想定した指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿と、授業での実際の児童の姿を照らし合わせて客観的に見取ることができます。それにより、授業改善や児童への学習支援を適切に行いながら授業を進めることができ、指導と評価の一体化が図れます。

2年生 単元名「まとまりにわけて、お話を書こう」(全10時間)

単元の目標 「書くこと」の指導事項(イ)
「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿を想定

黄色で示した部分で「見取り方参考例集」を活用できます

指導事項を軸にした授業

- 1時間目 物語のつくりを知り学習の見通しをもつ
- 2・3時間目 物語づくりの練習をして構成の検討の方法に慣れる
- 4・5時間目 物語の題材を決め、材料を集める
- 6時間目 構成表にカードを並べて物語の構成を検討する
- 7・8時間目 物語を仕上げる
- 9・10時間目 製本して読み合う

指導に生かす評価

指導に生かす評価

指導事項(イ)

記録に残す評価

指導に生かす評価

指導に生かす評価

単元の目標 「書くこと」の指導事項(イ)の達成

使い方は5ページへ 

3 評価の場面での活用

想定した指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿と実際の児童の姿を照らし合わせることで、客観的に見取って評価に生かすことができます。その際に、想定した内容を、細分化してチェック項目とすると見取りやすくなります。

2年生「まとまりにわけて、お話を書こう」の評価の場面

児童Aの構成表

おわり	中	はじめ
ふたりの名前。 お話をしようか。 なにをするのか。	ふたりの名前。 お話をしようか。 なにをするのか。	ふたりの名前。 お話をしようか。 なにをするのか。
「だれ」 お話をしようか。 なにをするのか。	「だれ」 お話をしようか。 なにをするのか。	「だれ」 お話をしようか。 なにをするのか。
「だれ」 お話をしようか。 なにをするのか。	「だれ」 お話をしようか。 なにをするのか。	「だれ」 お話をしようか。 なにをするのか。
「だれ」 お話をしようか。 なにをするのか。	「だれ」 お話をしようか。 なにをするのか。	「だれ」 お話をしようか。 なにをするのか。

「自分が伝えたい物語の内容になるように、出来事をカードに書いたものを「始め」「中」「終わり」の場面ごとに並び替えて物語の構成を考えている」を達成しているかを見取って評価しましょう

内容を
細分化

場面ごとに合った場所にカードが置かれている」
「カードを並び替えて、構成を考えている」
「おおむね満足できる」状況を達成している



5年生「読み手が納得する意見文を書こう」の評価の場面

児童Bの意見文

わたしは全体的に持ち物に名前をつけたほうがいいと考えました。	わたしは全体的に持ち物に名前をつけたほうがいいと考えました。	わたしは全体的に持ち物に名前をつけたほうがいいと考えました。
まず、自分か物をなくした時、名前がなければ、たれか外とどけてくれるからです。名前をつけておくことで持ち主がたれか外とどけてくれるので、見つけた人はとどけてくれます。	まず、自分か物をなくした時、名前がなければ、たれか外とどけてくれるからです。名前をつけておくことで持ち主がたれか外とどけてくれるので、見つけた人はとどけてくれます。	まず、自分か物をなくした時、名前がなければ、たれか外とどけてくれるからです。名前をつけておくことで持ち主がたれか外とどけてくれるので、見つけた人はとどけてくれます。
次に、もし自分か落とし物を見つけた時、とどけて行きたくても名前がないととどけて行くことができません。これは名前がついていない落とし物か多いため、つくられていないのです。理由で名前をつけたほうがいいです。	次に、もし自分か落とし物を見つけた時、とどけて行きたくても名前がないととどけて行くことができません。これは名前がついていない落とし物か多いため、つくられていないのです。理由で名前をつけたほうがいいです。	次に、もし自分か落とし物を見つけた時、とどけて行きたくても名前がないととどけて行くことができません。これは名前がついていない落とし物か多いため、つくられていないのです。理由で名前をつけたほうがいいです。
わたしは、でも、名前を書くのはめんどうだと思います。でも、名前を書くのはめんどうだと思います。でも、名前を書くのはめんどうだと思います。	わたしは、でも、名前を書くのはめんどうだと思います。でも、名前を書くのはめんどうだと思います。でも、名前を書くのはめんどうだと思います。	わたしは、でも、名前を書くのはめんどうだと思います。でも、名前を書くのはめんどうだと思います。でも、名前を書くのはめんどうだと思います。
分やみんなのためにもなるし、よく書いて自分の名前ならすぐに書けます。もし名前が書けないものがあったとしても、名前も方法があります。シールをはいたり、名札をつけたり、書くペンをかえたりすれば、全ての持ち物に名前をつけることができます。	分やみんなのためにもなるし、よく書いて自分の名前ならすぐに書けます。もし名前が書けないものがあったとしても、名前も方法があります。シールをはいたり、名札をつけたり、書くペンをかえたりすれば、全ての持ち物に名前をつけることができます。	分やみんなのためにもなるし、よく書いて自分の名前ならすぐに書けます。もし名前が書けないものがあったとしても、名前も方法があります。シールをはいたり、名札をつけたり、書くペンをかえたりすれば、全ての持ち物に名前をつけることができます。
わたしは自分の全体的に持ち物に名前をつけて、自分にとってもみんなにとってもいいことがあると思います。たかひ、わたしは全ての持ち物に名前をつけたほうがいいと考えました。	わたしは自分の全体的に持ち物に名前をつけて、自分にとってもみんなにとってもいいことがあると思います。たかひ、わたしは全ての持ち物に名前をつけたほうがいいと考えました。	わたしは自分の全体的に持ち物に名前をつけて、自分にとってもみんなにとってもいいことがあると思います。たかひ、わたしは全ての持ち物に名前をつけたほうがいいと考えました。

「読み手が納得するように、自分の考えや伝えたいことの根拠の中心となる部分について、体験や出来事、資料や反論を加えて詳しく書くとともに、事実と、感想や意見を区別して書いている」を達成しているかを見取って評価しましょう

内容を
細分化

「自分の主張をはっきり書いている」
「主張の根拠として具体的な体験を入れて詳しく書いている」
「反論を取り入れている」
「事実と感想や意見とを区別して書いている」
「おおむね満足できる」状況を達成している



「見取り方参考例集」を活用した単元計画の立て方

例 2年生 単元名「まとまりにわけて、お話を書こう」
教材名「お話のさくしゃになろう」

1 年間指導計画を基に、本単元で取り上げる指導事項と言語活動を確認する



本単元で身に付けさせる指導事項を決めたら、扱う言語活動を
基に「見取り方参考例集」を開きましょう。

見取り方参考例集

1・2年生 言語活動例ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動	
指導事項ア	経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
題材の設定 情報の収集 内容の検討	・絵や写真から想像をして、どんな物語にするかを決めている。 ・登場人物の性格や「始め」「中」「終わり」の場面ごとに起こる出来事を考え、「誰が」「いつ」「どこで」「どのような出来事が起こったか」「どうなったか」などの内容ごとに、付箋やカードに簡単に書いて集めている。 ・集めた登場人物の性格や「はじめ」「中」「終わり」の場面ごとに起こる出来事などが、自分が想像した物語の内容に合うかを確かめている。
指導事項イ	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
構成の検討	・自分が伝えたい物語の内容になるように、出来事をカードや付箋に書いたものを「はじめ」「中」「終わり」の場面ごとに並び替えて物語の構成を考えている。
指導事項ウ	語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
考えの形成 記述	・物語の中心となる出来事が「はじめ」「中」「終わり」の「中」の部分に書かれていて、「中」の部分につながるよう出来事の順序に沿って「はじめ」と「終わり」の内容が書かれている。
指導事項エ	文章を読み直す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
推敲	・書いた物を読み直し、句読点や文字の間違いを正したり、出来事の起こった順序に沿って物語が書かれているかについて確かめたりしている。
指導事項オ	文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
共有	・物語の中心となる部分に着目しながら感想を伝え合うことで、自分の文章の内容や表現のよいところを見付け、線を引いたり印を付たりしている。

1・2年生 言語活動例ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動

指導事項イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

本単元では「想像したことを基に、簡単な物語を書く」という言語活動を通して指導事項イを身に付けさせるから「1・2年 言語活動例ウ」のページを見ればよいのね。



2 単元の評価規準を設定する

見取り方参考例集

1・2年生 言語活動例ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動	
指導事項ア	経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
題材の設定 情報の収集 内容の検討	・絵や写真から想像をして、どんな物語にするかを決めている。 ・登場人物の性格や「始め」「中」「終わり」の場面ごとに起こる出来事を考え、「誰が」「いつ」「どこで」「どのような出来事が起こったか」「どうなったか」などの内容ごとに、付箋やカードに簡単に書いて集めている。 ・集めた登場人物の性格や「はじめ」「中」「終わり」の場面ごとに起こる出来事などが、自分が想像した物語の内容に合うかを確かめている。
指導事項イ	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
構成の検討	・自分が伝えたい物語の内容になるように、出来事をカードや付箋に書いたものを「はじめ」「中」「終わり」の場面ごとに並び替えて物語の構成を考えている。
指導事項ウ	語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
考えの形成 記述	・物語の中心となる出来事が「はじめ」「中」「終わり」の「中」の部分に書かれていて、「中」の部分につながるよう出来事の順序に沿って「はじめ」と「終わり」の内容が書かれている。
指導事項エ	文章を読み直す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
推敲	・書いた物を読み直し、句読点や文字の間違いを正したり、出来事の起こった順序に沿って物語が書かれているかについて確かめたりしている。
指導事項オ	文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
共有	・物語の中心となる部分に着目しながら感想を伝え合うことで、自分の文章の内容や表現のよいところを見付け、線を引いたり印を付たりしている。

指導事項イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

指導事項イ 評価規準

「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている

評価規準は指導事項の文頭に
「『書くこと』において」と
付け加え、文末を「～している」
とすることで作成できます。

指導事項が載っているので、
評価規準の作成に便利ね。



3 指導事項の「おおむね満足」できる状況を達成した児童の姿を想定する



見取り方参考例集

1・2年生 言語活動例 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動	
指導事項イ	経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり選んだりして、伝えたいことを明確にすること。
教材の設定 情報の収集 内容の検討	・絵や写真から想像をして、どんな物語にするかを決めている。 ・登場人物の性格や「始め」「中」「終わり」の場面ごとに起こる出来事を考え、「誰が」「いつ」「どこで」「どのような出来事が起こったか」「どうなったか」などの内容ごとに、付箋やカードに簡単に書いて集めている。 ・集めた登場人物の性格や「はじめ」「中」「終わり」の場面ごとに起こる出来事などが、自分が想像した物語の内容に合うかを確かめている。
指導事項イ	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること
構成の検討	・自分が伝えたい物語の内容になるように、出来事をカードや付箋に書いたものを「始め」「中」「終わり」の場面ごとに並び替えて物語の構成を考えている。
指導事項ウ	語と語や文と文との読みに注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
考えの形成 記述	・物語の中心となる出来事が「はじめ」「中」「終わり」の部分に書かれていて、「中」の部分につながるように出来事の順序に沿って「はじめ」と「終わり」の内容が書かれている。
指導事項オ	文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との読みを確かめたりすること。
推敲	・書いた物を読み返し、句読点や文字の間違いを正したり、出来事の起こった順序に沿って物語が書かれているかについて整えて書き直している。
指導事項オ	文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
共有	・物語の中心となる部分に着目しながら感想を伝え合うことで、自分の文章の内容や表現のよいところを見付け、輪を引いたり印を付けていたりしている。

単元の目標：単元で身に付けさせたい力

指導事項イ	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
構成の検討	・自分が伝えたい物語の内容になるように、出来事をカードや付箋に書いたものを「始め」「中」「終わり」の場面ごとに並び替えて物語の構成を考えている。

単元の目標を達成した児童の具体的な姿

学習活動を踏まえて想定した児童の具体的な姿

自分が伝えたい物語の内容になるように、出来事をカードに書いたものを「始め」「中」「終わり」の場面ごとに並び替えて物語の構成を考えている

指導と評価の計画を作成する際に、**単元で扱う言語活動に合せて**「おおむね満足できる状況」を達成した児童の姿を想定しましょう。

身に付けさせたい指導事項を達成した児童の具体的な姿が明確になれば、達成するためにふさわしい学習活動を適切に設定できます。

指導事項から直接想定するのは大変だけれど、「見取り方参考例集」を使うと、言語活動に合った具体的な児童の姿の想定がしやすくなった。

児童が目標を達成するためにも、既習の物語文を使って構成について知る活動や考えた構成を基にペアで説明し合って理解を深める活動を取り入れた計画を立てよう。

4 単元の評価計画を基に、各単位時間の評価規準を具体的にする

「見取り方参考例集」基に想定した児童の姿をゴールとすることで、各時間でどのような姿を見取りながら授業を進めていくのかも明確になります。

各時間で見取る姿が明確になったから「努力を要する」状況の児童への手立ても考えやすくなった。

「見取り方参考例集」を活用することで**指導事項を達成した具体的な児童の姿を想定しやすくなり、その姿を基にすることで、指導事項から外れずに単元計画を立てることができた。**単元計画に必要な情報が1ページに収まっているのも便利ね。

「見取り方参考例集」を活用した、 指導と評価の一体化を心掛けた授業の進め方

1 指導と評価の一体化について

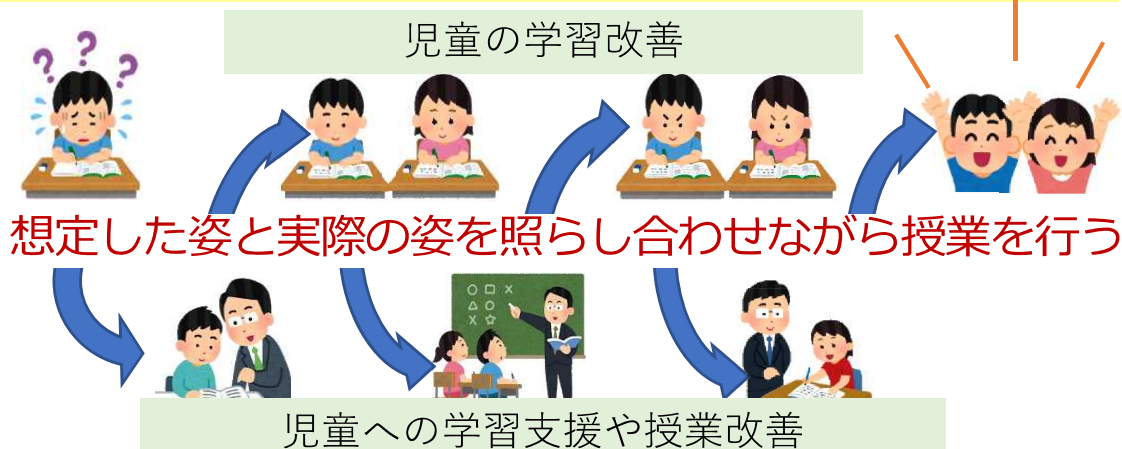
指導と評価の一体化を実現するって、
ということなのかな。



指導と評価の一体化の実現のためには、児童一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を重視します。教師が自らの指導のねらいに応じて、児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていく必要があります。



児童の姿を客観的に見取り、評価を指導に生かす



「見取り方参考例集」を基に想定した具体的な児童の姿と授業での児童の姿を照らし合わせながら客観的に見取り、各時間の目標が達成されたかどうかを的確に評価し、児童への学習支援や授業改善を適切に行うことができます。



なるほど、「評価して終わり」ではないのね。確かに、単元で目指す児童の姿が明確になっていれば、達成しているかを判断しやすくなり、評価を指導に生かすことができるな。



2 授業での「見取り方参考例集」の活用

「見取り方参考例集」は、実際の授業ではどのように生かせるのかな。



単元計画の際に想定した「自分が伝えたい物語の内容になるように、出来事をカードに書いたものを『始め』『中』『終わり』の場面ごとに並び替えて物語の構成を考えている」という児童の姿を単元全体の軸にして授業を進めていきましょう。



授業での活用は次ページへ

教師の授業改善



事柄の順序に着目させたかったけれど、場面ごとのつながりがはっきりしない児童が多かった



次時ではペアで質問し合う活動を取り入れ、構成表のどこに書くのかをしっかりと考えさせよう



想定した児童の姿と照らし合わせて授業での児童の姿を見取することで、単元の目標を達成するためにどのような指導が必要なのか、児童の実態に合わせた手立てをとることができます

児童への学習支援



「どのようなお話にしたいのか」を簡単に書く活動で、Aさんは十分書けていなかった



個別指導をして、話の内容を質問することで、Aさんが書きたい内容を引き出そう



各学習過程で見られる児童の姿を、想定した児童の姿と照らし合わせて見取っていくことで、「努力を要する」状況の児童への指導へ生かすことができます

児童の学習改善



構成を考える際の観点を児童と共有して授業を進めてきたことで、自分の考えた物語の構成をペアで検討する活動でも、児童がその観点を意識して活動できていたな



単元で達成すべき姿を目標として児童に示すことによって、児童自身が単元において何を学ぶべきかが明確になり、自己の学習を調整したり協働的に学んだりしやすくなります



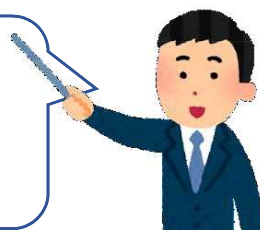
目標とする指導事項を達成した具体的な児童の姿が明確に想定できていたので、その姿と実際の児童の姿を照らし合わせながら客観的に見取り、適切な手立てを取りながら授業ができた





「見取り方参考例集」各項目の見方

「見取り方参考例集」の各項目については以下のとおりです。使う際の参考にしてください。



言語活動例ごとに 全学年分を作成

1・2年生 言語活動例ア

身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、
見聞きしたことを書く活動

指導事項ア 経験したことや想像
めたりして、伝えたい
題材の設定
情報の収集
内容の検討
・経験したことや身の回
・身の回りで観察した
集めている。
・集めた情報が、伝え
ている。

言語活動例に合わせた「**おおむね満足できる**」
状況を達成した具体的な児童の姿を各指導
事項で示しているのので、言語活動を通して何を見
取るのかが分かり、単元計画や客観的な見取りに
生かすことができる

指導事項イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

構成の検討
・自分の伝えたいことが明確になるように、調べたことを記入したメモや付箋などを並び
替えて、事柄の順序に沿うように構成を考えている。

指導事項ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し
方を工夫すること。

考えの形成
記述
・時間や順序を表す語
ごとにまとめたり、

指導事項エ 文章を読み返す習慣を
方確かめたりするこ
推敲
・書いた物を読み返し、
に沿って書かれている

指導事項と**具体的な児童の姿**とを合わせて見る
ことができるので、単元で身に付けさせたい力を
意識した単元計画や、指導と評価の一体化した
授業づくりに役立つ

指導事項オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。

共有
・事柄の順序に沿って書かれているかについて着目しながら感想を伝え合い、自分の表現
のよいところを見付け、線を引いたり印を付けたりしている。

学習過程を示しているのので、学習
指導要領と同じように見ることができ、
使いやすい

1・2年生 言語活動例ア

身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、
見聞きしたことを書く活動

指導事項ア	経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
題材の設定 情報の収集 内容の検討	・経験したことや身の回りのことなどから書くことを見付けている。 ・身の回りで観察したことや、体験した出来事の中から、書くために必要な事柄を集めている。 ・集めた情報が、伝えたいことと合っているかについてや必要かどうかについてを確かめている。
指導事項イ	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
構成の検討	・自分の伝えたいことが明確になるように、調べたことを記入したメモや付箋などを並び替えて、事柄の順序に沿うように構成を考えている。
指導事項ウ	語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
考えの形成 記述	・時間や順序を表す語を適切に用いて、観察したことや経験したことを基にして同じ内容ごとにまとめたり、「始め」「中」「終わり」の内容ごとにまとめたりして書いている。
指導事項エ	文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
推敲	・書いた物を読み返し、付箋や印を付けて、句読点や字の間違いを正したり、事柄の順序に沿って書かれているかを確かめたりしている。
指導事項オ	文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
共有	・事柄の順序に沿って書かれているかについて着目しながら感想を伝え合い、自分の表現のよいところを見付け、線を引いたり印を付けたりしている。

主な教材名

光村図書 1 年「おおきくなった」「しらせたいな、見せたいな」「じどう車ずかんをつくろう」
「ともだちのこと、しらせよう」「いいこといっぱい、一年生」
2 年「かんさつ名人になろう」「こんなもの見つけたよ」
「おもちゃの作り方をせつめいしよう」
教育出版 1 年「せんせいあのね」「よくみてかこう」「たのしかったことをかこう」
「『のりものカード』でしらせよう」「つたえたいことをおもい出してかこう」
2 年「『生きものクイズ』を作ろう」「『かんさつ発見カード』を書こう」
「町の『すてき』をつたえます」「おもしろいもの、みつけたよ」
「おもちゃのせつめい書を書こう」「こんなことができるようになったよ」

1・2年生 言語活動例イ

日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動

指導事項ア	経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
題材の設定	
情報の収集	・日々の出来事や経験したことなどから、日記や手紙に書く題材を見付けている。
内容の検討	・日記や手紙で伝えたいことに合った日々の出来事や経験したことを、ノートやカードに書いて集めている。 ・日記や手紙で伝えたいことに、集めた日々の出来事や経験したことが合っているかや必要な情報かについて確かめている。
指導事項イ	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
構成の検討	・日記や手紙で伝えたいことが明確になるように、出来事の起こった順序や経験した順序に沿って、付箋やカードに出来事や経験を簡単に書いたものを並び替えて構成を考えている。
指導事項ウ	語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
考えの形成	
記述	・出来事の起こった順序や経験した順序に沿うように書き、その出来事や経験を通じてもった気持ちを加えて日記や手紙を書いている。
指導事項エ	文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
推敲	・書いた物を読み返し、付箋を付けたり印を入れたりして、句読点や字の間違いを正したり、出来事の起こった順序や経験した順序に沿って書かれているかを確かめたりしている。
指導事項オ	文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
共有	・具体的な出来事や経験とそのときの思いに着目しながら感想を伝え合うことで、自分の文章の内容や表現のよいところを見付け、線を引いたり印を付けたりしている。

主な教材名

光村図書 1 年「すきなもののなかに」「こんなことがあったよ」「てがみでしらせよう」

2 年「じゅんばんにならぼう」「きょうのできごと」「すてきなところをつたえよう」

教育出版 1 年「えにっき」「見つけたよ、いきもののひみつ」「ころもかぼか手がみをかこう」
「お手がみ」

2 年「つづけてみよう一日記」「みじかい言葉で」

1・2年生 言語活動例ウ

簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動

指導事項ア	経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
題材の設定	-----
情報の収集	・絵や写真から想像をして、どのような物語にするかを決めている。
内容の検討	・登場人物の性格や「始め」「中」「終わり」の場面ごとに起こる出来事を考え、「誰が」「いつ」「どこで」「どのような出来事が起こったか」「どうなったか」などの内容ごとに、付箋やカードに簡単に書いて集めている。 ・集めた登場人物の性格や「始め」「中」「終わり」の場面ごとに起こる出来事などが、自分が想像した物語の内容に合うかを確かめている。
指導事項イ	自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
構成の検討	・自分が伝えたい物語の内容になるように、出来事をカードや付箋に書いたものを「始め」「中」「終わり」の場面ごとに並び替えて物語の構成を考えている。
指導事項ウ	語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
考えの形成	-----
記述	・物語の中心となる出来事が「始め」「中」「終わり」の「中」の部分に書かれていて、「中」の部分につながるように出来事の順序に沿って「始め」と「終わり」の内容が書かれている。
指導事項エ	文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
推敲	-----
	・書いた物を読み返し、句読点や文字の間違いを正したり、出来事の起こった順序に沿って物語が書かれているかについて確かめたりしている。
指導事項オ	文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
共有	-----
	・物語の中心となる部分に着目しながら感想を伝え合うことで、自分の文章の内容や表現のよいところを見付け、線を引いたり印を付けたりしている。

主な教材名

光村図書 2 年「お話のさくしゃになろう」「見たこと、かんじたこと」

教育出版 1 年「うみへのながいたび」「きこえてきたよ、こんなことば」

2 年「きつねのおきゃくさま」「わにのおじいさんのたからもの」

3・4年生 言語活動例ア

調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動

指導事項ア 題材の設定 情報の収集 内容の検討	相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ・「誰に対して書くのか」や「何のために書くのか」など相手や目的を意識して、経験したことなどから自分が伝える題材を選んでいる。 ・相手や目的を意識して、自分が伝える題材に関する体験や出来事、本などで調べた内容を、書くための材料として集めている。 ・相手や目的を意識して、集めた情報を共通点や相異点に着目して比較したり、分類したりしている。
指導事項イ 構成の検討	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ・書き手の意図が伝わる文章になるように、書く内容の中心となる部分を明確にしなが ら、内容を簡単に記入した物を並び替えたり、矢印を付けたりして、「始め」「中」「終わ り」のまとまりごとに構成を考えている。
指導事項ウ 考えの形成 記述	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ・内容のまとまりごとに、「始め」「中」「終わり」に分けて書き、自分の考えを「なぜなら～」、「その理由は～」、「～ためである」などの理由を明確にする言葉を用いながら書いている。 ・内容のまとまりごとに、「始め」「中」「終わり」に分けて書き、自分の考えに関連する事例を「例えば～」、「事例をあげると～」、「～などがそれに当たる」などの表現を用いながら書いている。
指導事項エ 推敲	間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。 ・文章を読み返し、主語と述語の関係の明確さや、常体と敬体などの文末表現の使い方を正したり、文章表現や内容が伝える相手や目的に適しているかについて確認したりして文章を整えている。
指導事項オ 共有	書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ・自分が調べたことや体験したと自分が伝えたい内容がどのように関係しているかについて伝え合い、自分の文章のよいところを見付け、その部分に線を引いたり印を付けたりしている。

主な教材名

光村図書 3 年 「仕事のくふう見つけたよ」「食べ物のひみつを教えます」「ことわざ・故事成語」「つたわる言葉で表そう」「これがわたしのお気に入り」

4 年 「新聞を作ろう」「伝統工芸のよさを伝えよう」「慣用句」「もしものときにそなえよう」

教育出版 3 年 「『発見ノート』を作ろう」「クラスの『生き物ブック』を作ろう」「取材して知らせよう」「『おすすめ図書カード』を作ろう」「強く心にのこっていることを」

4 年 「花を見つける手がかり」「新聞を作ろう」「『不思議ずかん』を作ろう」「自分の成長をふり返って」

3・4年生 言語活動例イ

行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動

指導事項ア	相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
題材の設定 情報の収集 内容の検討	・案内状や手紙を、誰にどのような目的で書くかについて考えて、経験したことなどから書く内容を決めている。 ・相手や目的を意識して、案内状や手紙で伝えたい内容に必要な情報、理由や経験や感想をノートやカードに書いて集めている。 ・相手や目的を意識して、案内状や手紙で伝えたい内容と書こうとする情報、理由や経験や感想が合っているかについて、集めた材料を比較したり分類したりして検討している。
指導事項イ	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。
構成の検討	・案内状や手紙で伝えるために内容に合うように集めた材料カードを並び替えて、「前文」「本文」「末文」などのまとまりの、どこにどのような内容を書くか文章の構成を考えている。
指導事項ウ	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
考えの形成 記述	・相手に内容や気持ちが伝わるように、内容や気持ちに合った必要な情報、理由や経験や感想を加えながら案内状や手紙を書いている。
指導事項エ	間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。
推敲	・文章を読み返し、主語と述語の関係の明確さや常体と敬体などの文末表現の使い方を正したり、伝えたい相手や目的を意識した内容になっているかを確かめたりして文章を整えている。
指導事項オ	書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
共有	・案内状や手紙で書いたことが、相手に対して伝わりやすい構成や表現になっているかについて感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付け、その部分に線を引いたり印を付けたりしている。

主な教材名

光村図書 3年「気持ちこめて『来てください』」

4年「お礼の気持ちを伝えよう」「秋の楽しみ」

教育出版 3年「手紙を書いてつえよう」「おにたのぼうし」

3・4年生 言語活動例ウ

詩や物語をつくることなど、感じたことや想像したことを書く活動

指導事項ア 題材の設定 情報の収集 内容の検討	相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ・詩や物語を、誰にどのような目的で書くかについて考え、経験したことや想像したことから書く内容を決めている。 ・誰にどのような目的で書くかについて考え、詩や物語で伝えたい内容に必要な材料をノートやカードに書いて収集している。 ・誰にどのような目的で書くかについて考え、伝えたいことが明確になるように集めた材料を比較したり分類したりして検討している。
指導事項イ 構成の検討	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ・物語で伝えたい内容を明確にし、「中」で起こる出来事につながるように、「始め」と「終わり」に書く内容を考えて文章の構成を考えている。 ・詩で伝えたい内容を明確にし、連ごとの内容や関係に注意しながら集めた材料を並び替えて、構成を考えている。
指導事項ウ 考えの形成 記述	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ・自分の考えや想像したことが読み手に伝わるように、中心となる出来事とその出来事に合った理由や出来事を加えたり、表現を工夫したりしながら詩や物語を書いている。
指導事項エ 推敲	間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ・文章を読み返し、主語と述語の関係の明確さや常体と敬体などの文末表現の使い方を確認したり、自分の考えや想像したことが読み手に伝わるような表現になっているかを確かめたりして文章を整えている。
指導事項オ 共有	書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ・詩や物語で伝えたい内容に合った出来事や表現方法になっているかについて感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付け、その部分に線を引いたり印を付けたりにしている。

主な教材名

光村図書 3年「たから島のぼうけん」

4年「夏の楽しみ」「感動を言葉に」「冬の楽しみ」

教育出版 3年「はつとしたことを詩に書こう」

4年「白いぼうし」「『ショートショート』を書こう」

5・6年生 言語活動例ア

事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動

指導事項ア 題材の設定 情報の収集 内容の検討	目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 - 目的や意図に応じて、日々の生活や学習の中で感じたり考えたりしたことから題材を設定している。 - 目的や意図に応じて、自分が伝えたい内容の根拠とするための材料を、本、インターネット、インタビュー、アンケートなどから適切な手段を選んで収集している。 - 目的や意図に応じて、付箋やワークシートを使い、集めた情報が伝えたいことの根拠となるかを考えながら同じ内容ごとに分類したり、関連付けたりしている。
指導事項イ 構成の検討	筋道の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考えること。 各段落に書く内容や量について考えたり、伝えたいことや知らせたいことが序論・本論・結論の部分に首尾一貫して書かれたりするように、付箋やワークシートを活用して文章全体の構成を考えている。
指導事項ウ 考えの形成 記述	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 目的や意図に応じて、自分の考えや伝えたいことの根拠となる部分について体験や出来事、資料を加えながら詳しく書いたり、簡単に書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いている。
指導事項エ 考えの形成 記述	引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 自分の伝えたい内容を伝えるのに適した文や文章を引用したり、図表やグラフなどの資料を用いたりして文章を書いている。
指導事項オ 推敲	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 文章の内容や表現の一貫性があるか、引用した文や資料として扱った図表やグラフが適切に用いられているか、事実と意見が区別されて書かれているかなどを観点として読み返し、文章を整えている。
指導事項カ 共有	文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 目的に応じた文章構成になっているかなど、学習した内容を観点としながら文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付け、その部分に線を引いたり印を付けたりしている。

主な教材名

光村図書 5年「みんなが過ごしやすい町へ」「グラフや表を用いて書こう」「あなたはどうか考える」「この本おすすめします」
 6年「私たちにできること」「日本文化を発信しよう」
 教育出版 5年「情報ノートを作ろう」「ポスターを作ろう」「意見文を書こう」「提案文を書こう」
 6年「図に表して考えよう」「パンフレットで知らせよう」「自分の考えを発信しよう」
 「伊能忠敬」

5・6年生 言語活動例イ

短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動

指導事項ア	目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
題材の設定 情報の収集 内容の検討	- 目的や意図に応じて、日々の生活の中で感じたり考えたりしたことや想像したことから題材を設定している。 - 目的や意図に応じて、日々の生活の中で感じたり考えたりしたことや想像したことを伝えるのに適した材料を収集している。 - 目的や意図に応じて、感じたり考えたりしたことや想像したことを伝えるために、付箋やワークシートを活用して集めた材料を分類したり、関連付けたりしている。
指導事項イ	筋道の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考えること。
構成の検討	付箋やワークシートを活用し、自分が伝えたい思いや想像したことが読み手に伝わるように、順番を入れ替えたり、つながりを考えたりして展開を考えている。
指導事項ウ	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
考えの形成 記述	自分が伝えたい思いや想像したことが読み手に伝わるように、中心となる場面を簡単に書いたり、表現方法を工夫して書いたりしている。
指導事項エ	引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
考えの形成 記述	自分の感じたことや想像したことが読み手に伝わるように、短歌や俳句などに合った絵や写真を加えて書いている。
指導事項オ	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。
推敲	自分の感じたことや想像したことが読み手に伝わるように展開を考えたり、表現方法を工夫したりして文章を整えている。
指導事項カ	文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
共有	自分が伝えたい思いや想像したことが読み手に伝わるような表現方法や文章構成になっているかなどに着目して、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付け、その部分に線を引いたり印を付けたりしている。

主な教材名

光村図書 5 年「日常を十七音で」

6 年「春のいぶき」「たのしみは」「秋深し」「思い出を言葉に」

教育出版 5 年「俳句を作ろう」

6 年「物語を作ろう」

5・6年生 言語活動例ウ

事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動

指導事項ア 題材の設定 情報の収集 内容の検討	目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ・目的や意図に応じて、事実や経験が、自分にとってどのような意味をもつのかについて考えて題材を設定している。 ・目的や意図に応じて、自分の体験や見聞きしたことが、自分にとってどのような意味をもつのかについて考え、自分が書く題材に合う出来事や言葉を収集している。 ・目的や意図に応じて、集めた自分の体験や見聞きしたことが、自分にとってどのような意味をもつのかについて考え、付箋やワークシートを使って分類したり関連付けたりしている。
指導事項イ 構成の検討	筋道の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ・自分の思いが読み手に伝わるように、「始め」「中」「終わり」に書く内容のつながりを意識したり書く量を考えたりしながら、集めた材料を並び替えて、文章全体の構成や展開を考えている。
指導事項ウ 考えの形成 記述	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ・目的や意図に応じて、事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことが読み手に伝わるように、自分が最も伝えたい部分を詳しく書くとともに、事実や経験とそれを通してもった自分のものの見方や考え方を区別して書いている。
指導事項エ 考えの形成 記述	引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ・事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について考えたことを伝えるのに適切な文や文章を引用したり、図表やグラフなどの資料を用いたりして文章を書いている。
指導事項オ 推敲	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ・自分が最も伝えたい部分が詳しく書かれているか、事実や経験と感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について考えたことが区別して書かれているかなど、学習した内容を観点として読み返し文章を整えている。
指導事項カ 共有	文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ・感じたり考えたりしたことが伝わる文章構成になっているかなど、学習した内容を観点としながら文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付け、その部分に線を引いたり印を付けたりしている。

主な教材名

光村図書 5 年「かんがえるのっておもしろい」「春の空」「夏の夜」「秋の夕暮れ」「冬の朝」
「この本おすすめします」
6 年「気になるニュースを集めよう」「大切にしたい言葉」「思い出を言葉に」
教育出版 6 年「随筆を書こう」「ひろがる言葉」

単元計画・ 授業展開例

「見取り方参考例集」
を活用した単元計画や
授業展開例を紹介



単元計画

単元名「読み手が納得する意見文を書こう」（第5学年 B書くこと）

教材名「あなたは、どう考える」（光村図書）

1 単元の目標

- ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類と特徴について理解することができる。（知識及び技能(1)カ）
- ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思考力、判断力、表現力等Bウ）
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

2 単元で取り上げる言語活動

自分の生活の中から題材を見付けて意見文を書く。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類と特徴について理解している。((1)カ)	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Bウ)	①自分の考えが伝わるように粘り強く書き表し方を吟味し、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

4 指導と評価の計画（全7時間）

	時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
つかむ	1	○新聞の投書を読んで、意見文について関心をもち、学習課題と学習計画を立てる。 ○自分の生活の中から意見文の題材となりそうなものを挙げ、その中から自分が書く題材を決める。	・小学生が書いた新聞の投書を読んで感想を出し合い、関心を高める。 ・自分の生活の中で感じた課題や続けたいことについて、友達と意見を出し合うことで、題材の候補を出しやすくする。 ・題材が見付からない児童の参考として児童の実態に合った題材をいくつか用意しておく。	「評価規準・評価方法」は本単元の「見取り方参考例集」の活用に関わる「思考・判断・表現」の評価のみを記載しています。
追究する	2	○教科書の意見文の例を読み、自分が意見文を書く際に生かしたい書き方の工夫を見付ける。	・意見の根拠となる事実の部分を抜いた例や反論の事実の部分を抜いた例を提示し、比較することで、読む相手に自分の意見が伝わる書き方の工夫に気付けるようにする。	

追究する	3	○集めた自分の意見の理由や根拠を分類・整理して、意見の理由や根拠として説得力のあるものを選ぶ。	・友達と意見交換をすることで、多様な視点から自分の題材について考えられるようにする。	「見取り方参考例集」を参考に想定した児童の姿 【思】読み手が納得するように、自分の考えや伝えたいことの根拠の中心となる部分について、体験や出来事、資料や反論を加えて詳しく書くとともに、事実と、感想や意見とを区別して書いている。 (意見文)
	4	○読む相手に自分の意見が伝わるように構成を考える。	・字数を500字と制限することで、書く内容によって詳しく書くか、簡単に書くかを考えながら構成を考えられるようにする。 ・「考え」「根拠」「反論」など、内容ごとに色分けして付箋に書かせ、それを並べ替えて構成の検討ができるようにする。	
	5	○構成を基に意見文の下書きを書く。	・事実と意見を書き分けられるように、文末に使う言葉を意識できるように板書しておく。	
	6	○書いた下書きを推敲し、清書する。	・内容と表記の両方を推敲の観点として板書して示す。	
まとめる	7	○意見文に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。 ○単元の学習を振り返る。	・自分の意見が読む人に伝わる意見文を書くために重点的に指導してきた部分を、読む際にも意識しながら読み合うよう促す。	

授業展開例

児童が書いた意見文において、「見取り方参考例集」で示した「目的や意図に応じて、自分の考えや伝えたいことの根拠となる部分について体験や出来事、資料を加えながら詳しく書いたり、簡単に書いたりするとともに、事実と、感想や意見とを区別して書いている」という姿が見られるように授業を展開しましょう。

読み手が納得する意見文を書こう 第一時・第二時

第一時 題材の設定

実際に小学校五年生が書いた新聞への投書を紹介して、自分たちも実際に投書することを伝え、意見文を書くことへの関心を高める。

「自分自身や身の回りの出来事で『変えていかなければならないこと』について。」（課題と感じていること）

「自分自身や身の回りの出来事で『続けていった方がよいこと』について」（よいことだと感じていること）
などをテーマにして意見文の題材を決めさせる。

第二時 情報の収集

教科書の意見文と教師の作成した例文を読み比べ、自分が意見文を書く際に生かしたい書き方の工夫を見付けられるようにする。
自分の主張に説得力をもたせるために理由や根拠（事実や体験）を取り入れて書いたり、反論を取り入れて目的や意図に応じて詳しく書いたりすることの大切さに児童自身で気付けるようにする。

主張、主張の理由、主張の根拠を色分けした付箋に短い言葉で書かせる。「事実」と「意見」で付箋の色を変えることで、区別をしながら必要な情報を集められるようにする。

【主張】赤

マイバッグを持ち歩こう

【理由】黄

環境を守ることにつながる

【根拠】青

海洋プラごみのデータ

【根拠】青

コンビニで買った体験

【根拠】青

多くの人がマイバッグを持っていた

【第二時の資料】

読み比べて、教科書p178の意見文にはどのような工夫があるかを友達と話し合いましょう。

安全のために、よび出しは番号がよい

〇〇 〇〇

ぼくは、病院のよび出し番号は番号がよいと考える。

名前をよばれば、個人が特定されてしまうかもしれない。
病院には、だれがいるか分からないし、名前も通院していることも大切な個人情報なので、他の人に知られないようにするほうがいいだろう。

名前の方が分かりやすいし、名前だけならだいじょうぶだと思いかもしれない。しかし、名前だけでも安全面で心配があるといえる。

多くの人の個人情報を守るという点から、病院のよび出しは番号の方がよい。

教科書の意見文と比較することで、事実を加えて書くことの効果について児童自身が気付けるようにしましょう。
また、反論部分の記述に着目させ、詳しく書くことの大切さについて気付けるようにしましょう。
ここで見つけた工夫を意識して意見文を書かせましょう。



読み手が納得する意見文を書こう 第三時・第四時

第三時 内容の検討

自分の意見に説得力をもたせられるものはどれかを意識しながら、自分の主張に対する理由や根拠を分類・整理して、説得力のあるものを選ぶようにする。

自分の主張に対する反論について友達と話し合う機会を設定することで、自分の意見を多様な視点から検討し、内容を充実できるようにする。

第四時 構成の検討

始め	中			終わり
自分の主張	理由と根拠（事実や体験）	予想される反論	反論に対する考えや根拠	まとめ

このような構成表に「情報の収集」で使った付箋を貼ったり短い言葉で書いたりすることで、児童が文章のまとまりを明確にしながらか構成を考えられるようになります。

読み手が納得する意見文を書こう 第五時

第五時 考えの形成・記述

教科書の意見文の例を参考にして、事実と意見の文末表現の書き表し方を全体で確認し板書しておく。

中		始め
まとめ	根拠 考えや 対する 反論に	主張 理由と 根拠 （事実や 体験） 反論

【確認しながら書きましょう】

□自分の主張をはっきり書く

□読み手が納得するように、自分の主張の根拠となる部分について具体的な体験や出来事、資料などを加えてくわしく書く

□反論を取り入れて書く

□事実と、感想や意見とを区別して書く

想定した児童の姿を細分化したものを、下書きを書く段階において意見文を書く際の観点として児童に示すことで、児童が意識しながら書けるようにしましょう。



読み手が納得する意見文を書こう 第六・七時

第六時 考えの形成・記述・推敲

下書きを書くときに示した「確認しながら書きましょう」を推敲をする際の観点として示すことで、児童自身が観点に沿って推敲できるようにする。

教師も下書きを読み、「見取り方参考例集」を基に想定した児童の姿を達成していない部分については、指導・助言を行う。

清書をする際には、左の四つを観点として書かせる。

- 自分の主張をはつきり書いている
- 読み手が納得するように、自分の主張の根拠となる部分について具体的な体験や出来事、資料などを加えて詳しく書いている
- 反論を取り入れて書いている
- 事実と、感想や意見とを区別して書いている

意見文の記述と「見取り方参考例集」を基に想定した児童の姿を対応させて、達成しているかをチェックしよう。

児童の意見文の記述が、右の四つの項目全てを達成していたら、「おおむね満足できる」状況を達成していると判断することができます。

第七時 共有



完成した作品を読み合う際には、学習した内容を観点にして意見を伝え合わせる。

意見を伝え合うことで気付いた、自分の文章のよい部分はどこかや本単元を振り返り、どのような力が身に付いたかについて記述させることで、単元を通して身に付けた力を意識させる。